

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

＜教育方針＞ 豊かな情操と気品ある人格を育み、これからの社会を支える健全な精神を持つ若者を育成する。 「情操」とは、美しいものや優れたものに対して素直に感動できる心。相手の良いところに気づき、相手を敬うことができる力 「気品」とは、落ち着いた振舞い、優しい気持ちで人と接することのできる精神的な美しさ ＜夕陽丘教育の4つの柱＞ 1 自ら考え、行動できるように自主自律の心を育む学校 2 幅広い教養を身に付け、一人ひとりが自己実現を達成できる力を養う学校 3 国際的視野をもち、社会の変化に対応できるグローバル人材を育成する学校 4 国内最高レベルの音楽教育を推進する学校	
--	--

2 中期的目標

■ 全ての教育活動に「自主・自律」、「グローバル」の観点を取り入れる。	
1 豊かな人間性の涵養と「自主・自律」の心を育む (1) 基本的生活習慣を確立し、学業及び行事に主体的・協働的に取り組む。 ア 学生自治を基本に、学校生活・行事・部活動に主体的・協働的に取り組み、快活な学生を育てる。 ※自己診断生徒 98%以上 (R4:96.7%, R5:97.8%, R6:97.6%) イ 身近な事柄を通じて、他者理解や思いやりの心など豊かな人間性を身につける。 ※自己診断生徒 97%以上 (R4:94.2%, R5:96.1%, R6:94.7%) ウ 道徳教育推進教師を中心に、道徳教育の充実を図る。 ※自己診断生徒 85%以上 (R4:84.7%, R5:82.6%, R6:83.2%) (2) 学校、保護者、地域が一体となって安心安全で温もりのある学校・地域づくりに参画する。 ア 「こころの再生」にかかるあいさつ、地域の学校や施設等との交流活動を行う。 ※自己診断生徒 97%以上 (R4:95.1%, R5:95.8%, R6:96.4%) イ 教育相談・支援体制を充実させるとともに、家庭、専門人材、外部機関等と連携し、生徒一人ひとりに応じた教育活動を推進する。 ※自己診断生徒 87%以上 (R4:85.8%, R5:86.6%, R6:87.3%) ウ 「夕陽丘高校いじめ防止基本方針」に基づき、学校全体でいじめの未然防止、早期発見・早期解決に取り組む。 ※自己診断生徒 90%以上 (R4:88.6%, R5:88.1%, R6:89.1%) エ 防犯・防災を含む危機管理体制、日常の環境整備により安心安全な教育環境を整える。 ※自己診断生徒 90%以上 (R4:88.9%, R5:88.4%, R6:84.1%)	
2 基礎学力を充実させ、「夢」や「志」を育み自己実現を達成できる力を養う (1) 学習指導要領を踏まえ、「カリキュラム・マネジメント」を確立し、「資質・能力」を育成する。 ア 総合的な探究の時間「夕陽学」、各教科・行事等の教育活動を通じて、社会との連携・協働を実現する。 ※自己診断教員 87%以上 (R4:86.3%, R5:84.2%, R6:73.6%) イ 学習指導要領を踏まえ、更なる授業の充実を図る。 ※自己診断教員 80%以上 (R4:78.4%, R5:66.7%, R6:71.7%) ウ 1人1台端末を効果的に活用し、「主体的対話的な深い学び」の実現と授業改善につなげる。 ※自己診断教員 97%以上 (R4:96.1%, R5:94.7%, R6:96.2%) エ 生徒の学習支援、自律的な学びを高める等のためにICT機器の活用を高める。 ※自己診断生徒 90%以上 (R4:89.1%, R5:85.7%, R6:91.7%) (2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路目標を明確にし、実現につなげる。 ア 各学年の生徒の希望に応じた進路の取組みを行う。※自己診断生徒 90%以上 (R4:91.4%, R5:86.2%, R6:85.0%) ※志望校決定率 70%以上 (R4:70%, R5:79%, R6:75%)、国公立・関西5私大(関関同立近大)実合格200名以上 (R4:209, R5:250, R6:151)	
3 国際的な視野を広げ、グローバルに活躍できる人材を育成する (1) 海外研修や授業等を通じて、多様性を理解するとともに、自身のキャリアデザインを考える。 ア 海外修学旅行、海外語学研修、ウィーン音楽研修を継続発展する。 イ グローバルに使える力として多様性・英語4技能をバランスよく育成する。 (R4:英語学力調査のスコア(本校)1年67.8,2年52.7、R5:1年62.2,2年実施なし、R6:1年60.6,2年58.6) (2) 国内にいながらにして国際交流を体験できるような様々な機会を提供する。 ア 海外からの学校訪問や留学生を積極的に受け入れ、日々の学習活動と関連をもたせ、国際交流の内容を深化する。 イ SDGsをテーマに、生徒の主体的な取組み及び国際交流の活動(オンラインによる国際交流活動を含む。)を学校全体で計画的に行う。 ※自己診断生徒 80%以上 (R4:79.4%, R5:79.5%, R6:84.9%)	
4 府内公立唯一の音楽科設置校として、国内最高の音楽教育を推進する (1) 国や府の推進事業等を積極的に活用し、国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン、特別公開講座を実施する。 ア 国際舞台で活躍することを意識した特別レッスン、特別公開講座を取り入れる。 イ 定期演奏会、地域での講演会等を企画・実現する。 (2) 生徒等の企画運営による学内演奏会やアウトリーチ活動を展開する。 ア 校内のヴィオーラホール等を活用して、また、近隣ホール・小学校、地域での音楽会を実施する。 (3) 国内及び海外の大学等と連携し、交流を促進する。 ア 大阪教育大学、韓国、台湾、オーストリアの学校等と交流を促進する。	
5 働き方改革の推進 (1) 教員および生徒の健康管理、教員の業務内容の効率化・多忙化解消をめざす。 ア 会議の短時間化・長時間勤務の解消 イ 部活動の適切な実施	
6 広報活動の充実 (1) 上の1～5の中期的目標の成果を効果的に発信する。	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和８年２月実施分〕				学校運営協議会からの意見			
学校生活をより充実したものとするため、生徒・保護者・教職員に対して、学校教育活動や取組みに関するアンケートを 10 月末から 11 月にかけて実施した。今年度も保護者の方からフォーム作成ツールで回答いただいた。 ○生徒に対する質問では、「学校行事ではクラス・学年・学校全体で協力して取り組んでいる（96.3）」「学校行事は充実していて楽しい（96.4）」「友達関係がうまくいっている（94.0）」「学校内で、先生や来客の方にあいさつができています（97.7）」「この学校には他の学校にない特色がある（91.6）」「部活動に積極的に取り組んでいる（92.3）」の項目の肯定的回答が高くなっている。一方で「家庭学習へのしっかりとした取り組み（62.2）」がやや低い結果となった。 ○保護者の方の回答からは、「友達関係」「学校行事」「他にない特色」などの質問に対する肯定的回答が 90％を超えている。また「PTA活動の充実」についても 90％近くの肯定的回答が得られており、学校行事、学校生活の様子などについて家庭との連携ができており、子どもへの関心を高く持っていたというすがうかがえる。また、授業がわかりやすいとする項目においては昨年度よりも 10%ほど高くなり 77%となった。引き続き授業力向上に繋げていきたい。 ○教職員の回答結果は、「生徒が意欲を持って授業を受けるよう教え方に様々な工夫をしている」という質問に対して肯定的回答が 100％であった。生徒・保護者の授業に関する項目の結果と相関していることから、引き続き維持していきたい。				第 1 回報告（6 月 24 日開催）以下の意見をいただいた。 ○令和 6 年度学校評価、令和 7 年度学校経営計画について ・学校経営計画については大きな変更は見られないが、単年度目標イメージの資料からは学校運営のイメージがよくわかる。 ・4 本柱となっている国際教育について、もっと戦略としての打ち出してもよいのではないか。 ・DX についてどのように取り組むかを具体的に考えたほうがよい。 ・課題探究においては大阪府をリードする取り組みを計画しており評価できる。 ・学校特色枠は、学校としてどのようなものを打ち出すかを分かり易く明確にする必要がある。 ・音楽科に関しては 30 周年事業を通じてさらなる魅力発信を行いたい。 ・万博参加に向けての取組みなどすばらしい取り組みである。ぜひ頑張ってもらいたい。 ・自宅学習についての指導が必要である。 第 2 回報告（11 月 25 日開催）以下の意見をいただいた。 ○学校経営計画の進捗状況について ・総合的な探究の時間（夕陽学）を切り口に学校というものをしっかりと外に広げていく。 ・教員力の向上として、校内だけでなくとどまらず、外に向かう姿勢を作っていく ・音楽科の定員割れ対策として、定員を安定化させるための方策を打つ。 ・大阪関西万博は非常に大きな本校の取組となった。大阪府の高校生チームの取組やパ張り音での出場など多くの生徒が万博に参加、また、オーストラリア総督が本校を訪問されるなど国際交流を深めることができた。 ○学校教育自己診断の結果について ・教員アンケート「日常的に話し合っている」については、昨年に比べ 15pt 以上高くなったのは素晴らしい。学校全体として助け合うなど、風通しのよい環境づくりが今後必要。 ・生徒の人権を尊重する指導については教員の意識が高まっていることがうかがえる。 ・保護者や地域の人々と接する機会を持つように努力しているという教員の割合が年々増えてきており、その成果が生徒アンケートにも反映している。 ・働き方については、残業時間、ストレスチェックの結果も昨年に比べ改善されている。 ・生徒の遅刻数がなかなか減少していない。人間関係については例年通りの水準である。 第 3 回報告（令和 8 年 2 月 5 日開催） ○令和 7 年度学校評価、令和 8 年度学校経営計画について ・学校行事に関する生徒の肯定率は 96.4%と高く、生徒による自主的な運営が評価された。 ・教科・分掌の取り組みで肯定率が 69.0%と目標（70%）に僅かに届かなかった点については、アンケート項目（カリキュラム・マネジメント等）の用語理解の乖離が原因の可能性があると として、次年度の改善課題とする。 ・LGH 指定期間の最終年として、全教員が 1 人 1 回以上の ICT 活用授業および研究レポート作成を実施し、100%の達成率となったことに評価を得た。 ・万博効果もあって海外交流の認知度が高まり、生徒の満足度は 98.7%に達した。現在、オーストラリアの 2 校（ブリスベン近郊およびパース）と姉妹校提携を進めており、来年度夏から本格的な派遣・受け入れを開始する予定。 ・音楽科については 3 年連続で定員を充足し、定員割れの課題を克服した。JR 西日本との連携や大阪・関西万博のフィナーレ出演など、学外での活躍も目立った。 ・働き方改革については、大阪府の指導のもと指定された 10 名の教員を含め全員が時間外勤務の枠内をクリアし、ストレスチェックも安全圏内となった。 次年度は、これまでの「安定」から「ステップアップ」と「攻めの運営」への転換を図る。 ・大阪府の中核（モデル校）となり、教育委員会や教育センターと連携して、府内全体の課題探究研究を牽引する組織体を構築する。 ・DX ハイスクールの指定を受け、「デジタル数学」の開講、3 D プリンターや高性能 PC を活用した「ものづくり」、AI 活用のガイドライン策定と実践を進める。 ・音楽科については、積極的に魅力を発信するフェーズへ移行する。2 年生からは音楽科の探究活動を充実させ、フェニックスホールとの連携による専門的な研究を行う。 <議決事項> 令和 7 年度学校評価、令和 8 年度学校経営計画			

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 豊かな人間性の涵養と「自主・自律」の心を育む	(1) 基本的生活習慣の確立、学業等へ主体的・協働的に取り組む。	ア 基本的生活習慣を確立する。 ・あいさつ週間・遅刻週間の実施。	ア ・遅刻者数の減少 昨年度比 10%減 【2551】 ・生徒向け学校教育自己診断における「あいさつ」の肯定率 95%以上 【96.4%】	ア ・現遅刻数 2684 (△) ・97.7% (○)
	(2) 安心安全で温もりのある学校づくり	イ あらゆる教育活動において、人権感覚を育成する。 ・生徒向け人権学習の充実 ・教職員向け研修の実施 ・道徳教育の充実を図る。 ウ 学生自治を基本とした学校行事等の実施 エ 地域等との交流活動を実施する。	イ ・人権学習等の事後アンケート肯定率 90%を維持 【89.0%】 ・教員向け学校教育自己診断における人権に関する項目の肯定率 90%を維持 【88.7%】 ウ ・生徒向け学校教育自己診断における学校行事に関する肯定率 90%を維持 【96.4%】 ・部活動に関する肯定率 85%を維持 【89.6%】 エ ・交流活動回数 3回以上【2回】 ア ・生徒向け学校教育自己診断における「先生に相談しやすい」の肯定率 80%を維持 【87.3%】 ・教員向け学校教育自己診断における教育相談関連の項目の肯定率 85%を維持 【86.8%】 イ ・生徒向け学校教育自己診断における「いじめ」に関する項目の肯定率 85%を維持 【89.3%】 ・校内環境点検 3回、防災訓練等 2回 【2回、1回】	イ. ・肯定率 98% (◎) LHR、講演、人権作文等実施 ・教員自己診断 97.6% (◎) ウ ・96.4% (◎) 生徒主体の行事運営等 ・92.3% (◎) エ 5回 (◎) ア ・85.9% (○) 生徒支援取り組みの充実 ・92.6% (◎) スピーディな対応 イ ・90.0% (○) ・校内点検 6回、 防災訓練等 1回 (○)
2 基礎学力を充実させ、「夢」や「志」を育み自己実現を達成できる力を養う	(1) 「カリキュラム・マネジメント」を確立し、「資質・能力」を育成する。	ア 学習指導要領を踏まえ、更なる授業の充実を図る。また、総合的な探究の時間「夕陽学」の充実を図る。	ア ・生徒向け学校教育自己診断における授業に関する項目の肯定率 80%以上 【85.4%】 ・教員向け学校教育自己診断における授業に関する項目の肯定率 90%を維持 【96.2%】 分掌・教科等の取組みに関する項目の肯定率 70% 【64.2%】 ・授業アンケート 平均 3.3 以上 【3.58】	ア ・87.4% (◎) わかりやすい授業努力 ・100% (◎) ICT 活用、教材研究努力 ・69.0% (○) ・3.54 (○)
	(2) キャリア教育を推進し、進路目標を明確にし、実現につなげる。	イ 1人1台端末を効果的に活用し、「主体的で対話的な深い学び」を充実する。 ICT を効果的に取り入れ、一斉、個別、協働学習の組み合わせにより、学びの深化を図る。 ウ 自律的な学びを高める。 エ 観点別評価の確実な実施に向けて更に研究する。 ※アからエの実現に組織的に取り組み、それぞれの授業改善につなげるとともに、カリキュラムマネジメントを生かして教科等の業務に取り組むことにより、働き方改革を推進する。 ア 系統的な進路指導の実施 ・学習支援クラウドサービスの有効活用 ・効果的な進路関係行事を実施する。 ・生徒の希望進路実現に向けた意識を高める。	イ ・1人1台端末等、ICT 活用に関するアンケート肯定率 85% 【91.7%】 ウ ・生徒向け学校教育自己診断における家庭学習に関する項目の肯定率 60%以上 【61.8%】 エ 校内教員研修の実施（教科・全体） ・ICT 活用公開授業 6回 【8回】 ・授業研究報告書の作成 1人1発表 【成果物作成】 ・総合的探究における指導の研修 2回 【2回】 ア ・進路講座実施回数 6回以上 【8回】 ・志望校決定率 70%以上 【75%】 ・国公立関西 5 私大（関関同立近大）200 名実合格 【151】 ・生徒向け学校教育自己診断における進路に関する項目の肯定率 85%以上 【85.0%】	イ ・92.9% (◎) LGH の成果 ウ ・62.2% (○) エ ・8回 (◎) 全教科で実施 ・冊子完成 (○) ・4回 (○) ア ・8回 (○) ・76% (○) ・216名 (○) ・90.3% (◎)
3 国際的な視野を広げ、グローバルに活躍できる人材を育成する	(1) 多様性の理解と自身のキャリアデザインを考える。	ア 海外修学旅行等を実施する。 イ 英語の4技能をバランスよく育成する。	ア・事後アンケートにおける満足度 90%を維持 【98.6%】 イ・英語学力調査のスコア：60% 【59.6】 ・コミュニケーション英語の英語利用率：70% 【75.0%】	ア・98.7% (◎) 有意義な体験行事実施 イ・62.5% (○) ・75.0% (○)
	(2) 国内にいながらにして国際交流を体験できる様々な機会を提供する。	ア 海外からの学校訪問や留学生を積極的に受け入れ、国際交流の機会を充実する。 姉妹校：クラークスタウン北高校（アメリカ・NY）、鳳新高級中学（台湾） イ 国際交流の活動を学校全体で計画的に行う。	ア・生徒向け学校教育自己診断における国際交流に関する肯定率 85%以上 【84.9%】 イ 交流活動の継続実施 ・訪問先受入校との事前事後の交流活動の継続実施 【板橋高校（台湾）】 ・SDGs に係る取り組みや国際交流活動年 3回実施 【アメリカ、韓国、台湾 計3回】 ・国際交流に係る生徒の取組人数 200 人を維持 【472人】	ア ・87.0% (◎) オーストラリア総督等訪問（日本代表）、留学生 5人受入、オーストラリア学生交流 イ ・国立基隆高級商工職業学校(台湾) (○) ・アイルランド高校代表との交流(VIP 万博)、5か国との生徒交流（万博）計 6回 (◎) ・480 名 (◎) 日本代表としての交流

府立夕陽丘高等学校

4 府内公立唯一の音楽科設置校として、国内最高の音楽教育を推進する	（１）国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン、特別公開講座を実施する。 （２）生徒等の企画運営による学内演奏会やアウトリーチ活動を展開する。 （３）国内及び海外の大学等と連携し交流を促進する。	ア 国際舞台で活躍することを意識した特別レッスン、特別公開講座を実施する。 イ 定期演奏会を企画・実現する。 ア 校内のヴィオーラホール等を活用して、また、近隣ホール・小学校、地域等での音楽会を実施する。 ア 大阪教育大学、韓国、台湾、オーストリアの学校等と交流を促進する。	ア 特別レッスン・公開講座の満足度 100%【100%】 イ 事後アンケートにおける満足度 100%【100%】 ア 校内、近隣ホール・小学校、地域等での音楽会の実施回数 6 回以上【15 回】 ア・年間 6 回以上【7 回】	ア 100% (○) イ 100% (○) ア 18 回 (◎) JR 西日本, NHK 他近隣との協力体制 ア 7 回 (○)
5 働き方改革の推進	（１）教員および生徒の健康管理、教員の業務内容の効率化・多忙化解消をめざす。	ア 教員の業務負担や心的ストレスなどを把握し、健康管理について取り組む。 イ 部活動大阪モデルによる活動が実施されているかを確認する機会をつくる。 ウ 業務の効率化に向けて各部署での取り組みを行う。	ア ・教員のストレスチェック 総合健康リスク値 100 以下【96】 ・残業時間 350 時間以下【新規】 イ ・教員向け学校教育自己診断における「部活動」に関する項目の肯定率 85%【92.5%】 ・生徒向け学校教育自己診断における「部活動」に関する項目の肯定率 85%【89.6%】 ウ ・教員の意識改革のための研修実施【実施なし】 ・各分掌での業務見直し報告書作成【実施なし】	ア ・95 (○) ・35 名 イ ・88.1% (○) ・92.3% (◎) ウ ・1 回 (○) ・1 回 (○)
6 広報活動の充実	（１）広報の在り方を検討する。	ア 中期的目標 1 ～ 5 の成果を効果的に発信 ・広報戦略を検討する。 ・学校説明会の実施（普通科・音楽科） ・「夕陽丘の風だより」の充実 ・夕陽丘マガジンの発行 ・動画等による広報発信 ・音楽科の広報発信の強化	ア ・広報戦略ワーキング 5 回【5 回】 ・学校説明会等の中学生、保護者の参加数 1600 名以上【2600 名】 ・動画配信 年 12 本以上【29 本】 ・夕陽丘マガジンの発行(学期 1 回)【3 回配信】	ア ・8 回 (○) ・3500 名 (◎) 説明会数の増加努力 ・29 本 (○) 生徒による作成 ・3 号配信 (○)